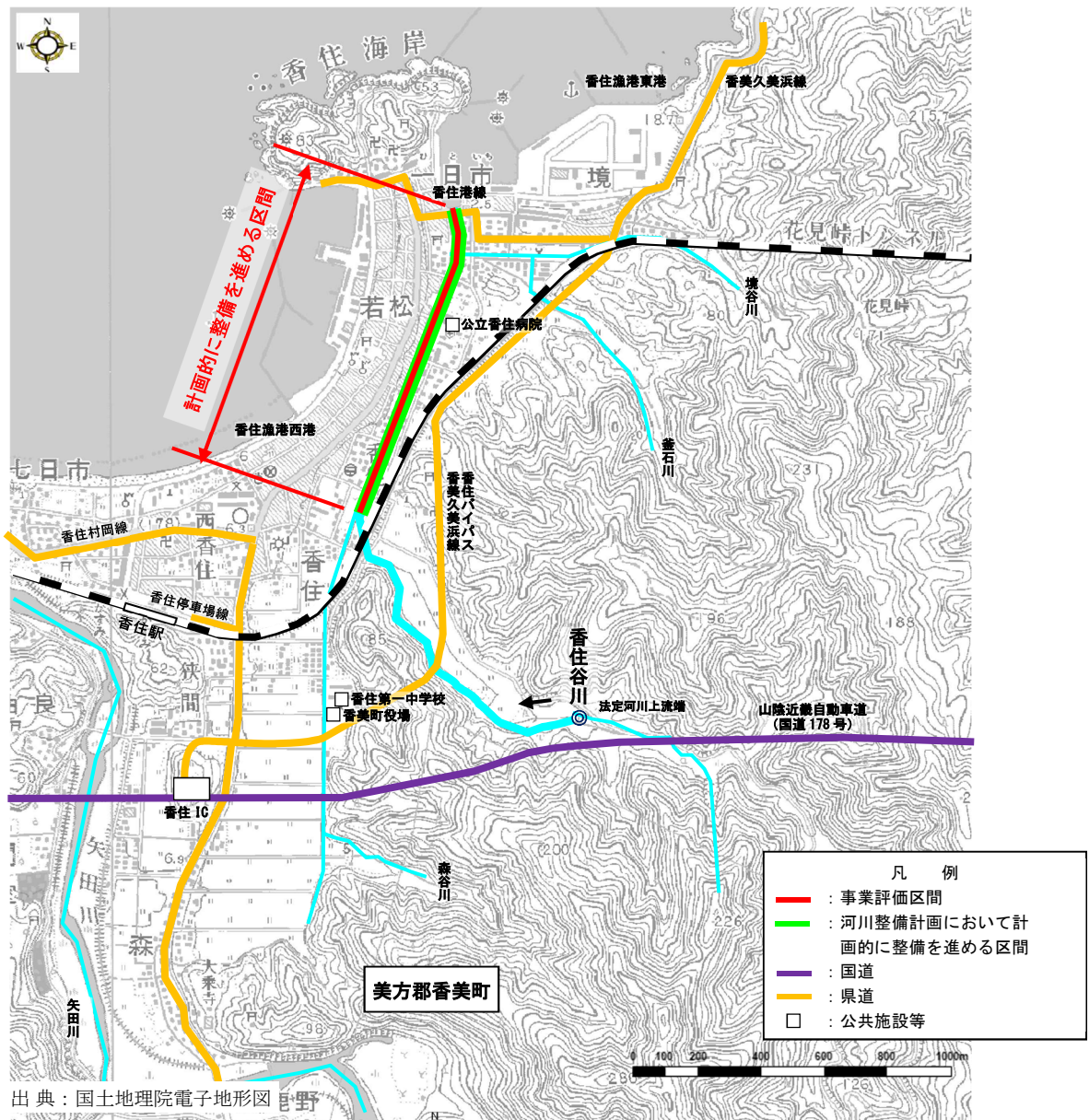


令和5年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第1回〕）

部課室名	土木部 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 八尾 昌彦 (河川・武庫川整備班主幹 矢尾 哲雄)	内線	4408 (4437)
事業種目	河川事業	水系名	香住谷川水系		
事業目的					
香住谷川水系において策定した河川整備計画（H26.1）に基づき、平成2年9月台風第19号と同規模の洪水に対し治水安全度を向上させ、地域住民の安全・安心を確保する。					
香住谷川水系河川整備計画における「計画的に整備を進める区間」					
本川					
	区間	延長	整備目標	事業の状況	前回評価年度
	香住谷川 (河口～JR山陰本線付近)	1.1km	平成2年9月台風第19号と同規模の洪水から浸水被害を軽減させる。	事業中	H25(2013) 新規評価

香住谷川水系香住谷川 河川整備計画 全体位置図



【香住谷川】

事業概要および進捗状況			今回評価内容 () : 前回評価時点				
工区	事業区間	整備内容		全体事業費	進捗率	残事業費	完成予定年度
香住谷川 (河口～JR 山陰本線付近)	香美町香住区 一日市～香住	改修延長 1,100m 河床掘削、護岸改修 【負担割合】 国：50% 県：50%	事業費	28億円 (20億円)	71% (0%)	8億円 (20億円)	R9 (R5)
			内用補	1.8億円 (0.1億円)	8% (0%)	1.8億円 (0.1億円)	

事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<p>気候変動の影響により、近年、豪雨災害が頻発化・激甚化していることから、河川改修に対する地元要望は強まっている。</p> <p>【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 下記の理由等により、事業費および事業期間を変更する。(8億円増、4年延伸)</p> <p>[事業費] ・詳細設計時の地元協議に伴う護岸形式を矢板護岸形式に変更したことによる増額 ・労務・材料単価等の高騰及び消費税率の変更に伴う増額</p> <p>[事業期間] ・護岸形式及び施工方法の変更検討に伴う延伸 ・上記変更に伴う施工効率の低下による事業期間の延伸</p>
進捗状況	<p>令和5(2023)年度までに矢板護岸L=1,000m(河口～通玄寺橋付近)、河床掘削L=600m(河口～唐栗口橋付近)が整備済み。</p>
評価視点	<p>評価結果の説明</p>
審査会意見及び対応方針(H25年度新規評価)	<p>【審査会意見】(着手妥当) 近年の豪雨・台風被害の状況を踏まえ、想定を超える被害が発生する可能性があることから、ハード対策だけでは限界があることを認識し、「但馬地域総合治水推進計画」に該当事業やソフト対策を位置付け、流域貯留対策や避難等のソフト対策を含めた総合治水に、県、町、住民が協働して取り組まれない。</p> <p>【対応方針】 「但馬地域総合治水推進計画」で当該地域の取組が但馬全域で広がっていくようモデル地域として位置づけ、香住谷川の河川改修と併せて、香美町庁舎の雨水貯留や香住第一中学校の校庭貯留など実施し、流出抑制に対する流域対策を行い、総合治水に対し、情報発信を行う。</p>
(1)必要性	<p>①過去から浸水被害が生じているため、局部的な改修を実施しているが、改修後も浸水被害が生じている。 (改修実績) ・災害関連事業(昭和48年～昭和49年)[河口0.6km～JR鉄橋下流] ・局部改良事業(昭和58年～昭和60年)[JR鉄橋付近] (改修後の浸水被害) ・改修後の昭和60年以降、4回(昭和62年、平成元年、平成2年、平成16年)の浸水被害発生 ・昭和62年台風第19号による浸水被害[浸水戸数5戸(内床上1戸)] ・平成元年集中豪雨による浸水被害[浸水戸数19戸(内床上6戸)] ・平成2年台風第19号による浸水被害[浸水戸数348戸(内床上99戸)] ・平成16年台風第23号による浸水被害[浸水戸数35戸(内床上1戸)]</p> <p>②事業開始前の流下能力は、基準点通玄寺橋地点において約20m³/sであり、平成2年9月台風第19号と同規模洪水に対する被害軽減に必要としている整備目標流量(45m³/s)の半分にも満たない。</p> <p>③度重なる浸水被害が発生しており、早急に河川改修を実施して、再度災害防止を図る必要がある。</p>

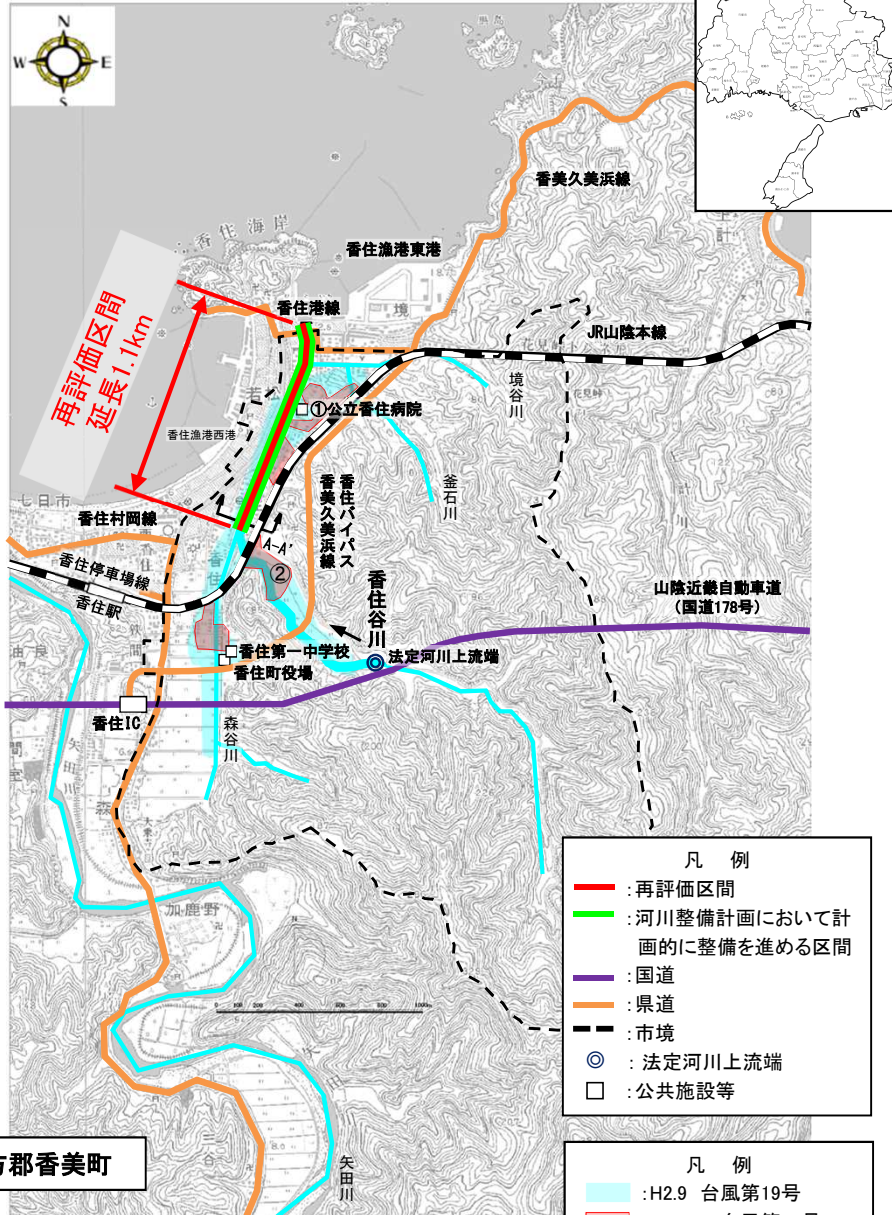
【香住谷川】

(2)有効性 ・効率性 (事業執行環境)		<p>①費用便益比：B/C=1.1 (1.05) (河川整備計画における全ての事業による費用便益比)</p> <p>②沿川には人家が連担し、県道等の重要交通網もあることから、河川改修による浸水被害額の軽減効果大きい。また、香住病院、郵便局などの公共施設が集中しており、各施設が浸水によって機能停止となった場合の社会的影響を考慮すると、河川改修による浸水被害軽減の効果はさらに高くなる。</p> <p>③河川改修により、平成2年台風第19号と同規模の洪水が発生しても、事業区間内において浸水被害が概ね解消する。</p> <p>④香住谷川下流部を横断する町道山手若松線の新設計画(平成27年～R5年)にあわせて、河口～香住病院までを重点整備することにより、町事業との一体的な事業進捗を図る。</p> <p>⑤平成2年の水害を契機に、県・町・地元で構成する「香住谷川川づくり懇話会」等で対策検討を重ねながら、地元合意が得られており、事業執行環境も整っている。</p> <p>⑥香住谷川流域を含む但馬地域総合治水促進計画を平成27年3月に策定している。</p>	
(3)環境適合性		人家密集地を流れる河川特性に配慮し、人が水辺を散策できるよう、親水空間の確保に努める。	
(4)優先性		①度重なる浸水被害が発生している本河川の改修の優先度は高い。	
の再 結果 評価	継続	左の理由	事業の必要性は、事業採択時と変わっておらず、地域住民の安全安心な生活環境を確保するため、事業を継続する必要がある。

河川事業 二級河川香住谷川水系香住谷川（継続：再評価〔第1回〕）

位置図

事業箇所



美方郡香美町

出典：国土地理院電子地形図

目的

香住谷川水系河川整備計画(H26.1)に基づき、平成2年9月 台風第19号と同規模の洪水から浸水被害を軽減

事業概要

事業区間：香美町香住区一日市～香住
 総事業費：28億円
 内用地補償費：1.8億円
 事業期間：H26(2014)～R9(2027)
 事業概要：河道改修
 延長：1.1km
 費用便益比B/C：1.1（河川整備計画における全ての事業による費用便益比）

浸水実績（H2.9台風第19号）

① 香住病院駐車場・香住病院内



浸水実績（S62.9台風第19号）

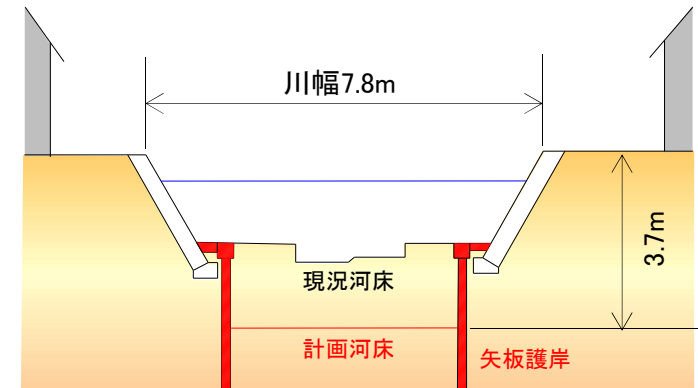
② 香住バイパスより下流側を見た出水状況



浸水実績

横断図

A-A' 断面



事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

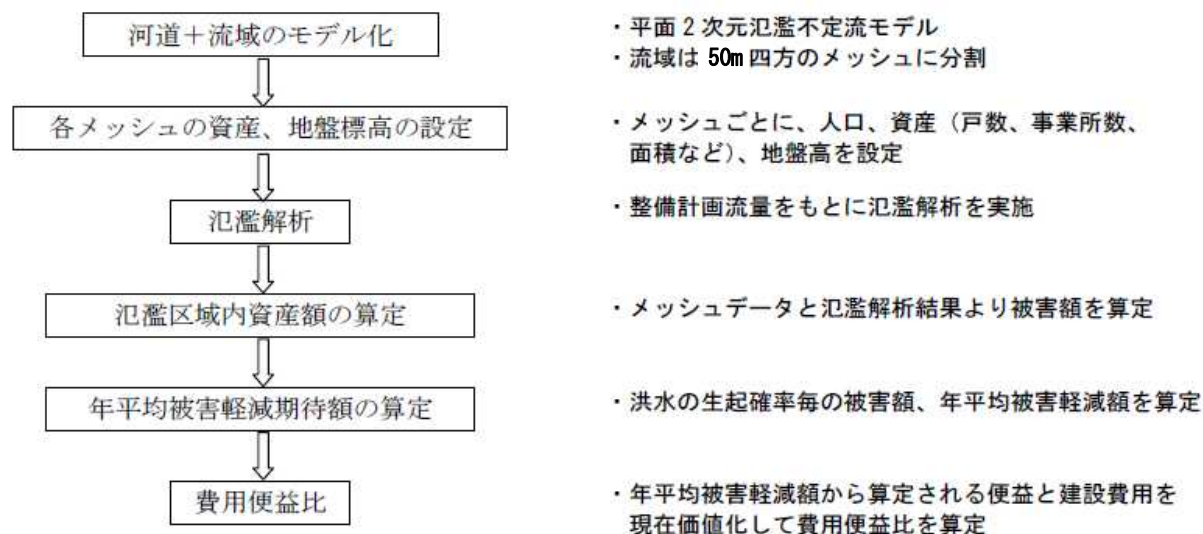
① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 (<ul style="list-style-type: none"> ・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所償却資産、農業家償却資産等) ・農産物被害、公共土木施設等被害、営業停止被害、応急対策費用)

1) 便益 = 「治水事業を実施することによる被害軽減期待額」を現在価値化

被害額 = 一般資産被害 + 農作物被害
 + 公共土木施設等被害
 + 営業停止被害 + 応急対策費用

2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化



② 費用便益費(B/C)算出根拠

B(便益)		C(費用)			B/C												
便益額	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費													
3,280 (百万円)	下記と同規模の洪水に対しての軽減効果(事業区間内) ・平成2年台風第19号→床上浸水が解消 (<table border="0"> <tr> <td>床上浸水戸数</td> <td>96戸</td> <td>→</td> <td>0戸</td> </tr> <tr> <td>床下浸水戸数</td> <td>156戸</td> <td>→</td> <td>27戸</td> </tr> <tr> <td>浸水面積</td> <td>21.5ha</td> <td>→</td> <td>3.2ha</td> </tr> </table>)	床上浸水戸数	96戸	→	0戸	床下浸水戸数	156戸	→	27戸	浸水面積	21.5ha	→	3.2ha	3,126 (百万円)	2,822 (百万円)	303 (百万円)	1.1
床上浸水戸数	96戸	→	0戸														
床下浸水戸数	156戸	→	27戸														
浸水面積	21.5ha	→	3.2ha														

※河川整備計画における全ての事業による費用便益比

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目
社会経済活動等の安定	人的被害の軽減
	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減
	水害廃棄物の発生の軽減
	ライフラインの停止による波及被害の軽減

該当する事業内容等	
○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水区域内人口1,380人、災害時要救護者342人を解消 ・ 最大孤立者数192人を解消
○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 香美久美浜線(交通量3,947台/日)の交通途絶を解消 ・ JR山陰本線(利用者数606人/日)の交通途絶を解消
○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療施設(公立香住病院)、社会福祉施設(ひまわりの森、老人保健施設「ゆうすげ」、市町村施設(香美町役場)、計4施設の浸水を解消
○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水害廃棄物167t、処理費用468万円の解消
○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電力の低下による影響人口(16人)、ガスの停止による影響人口(3人)、上水道の停止による影響人口(3人)、下水道の停止による影響人口(5,179人)、通信(固定)の停止による影響人口(17人)の解消、通信(携帯)の停止による影響人口(3人)の解消

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<p>近年、ゲリラ豪雨による被害が頻発しており、地域住民から河川改修による浸水被害軽減の要望が強くなっている。</p>
-------	---

参考：事業の変遷

昭和48年：災害関連事業着手(唐栗口橋付近からJR香住谷川鉄橋下流)
 昭和51年：台風第17号洪水(浸水家屋 55戸)
 昭和54年：台風第20号洪水(浸水家屋 10戸)
 昭和58年：局部改良事業着手(JR香住谷川鉄橋上下流)
 昭和62年：台風第19号洪水(浸水家屋 5戸)
 平成元年：集中豪雨(浸水家屋 19戸)
 平成2年：台風第19号洪水(浸水家屋 348戸)
 平成6年：河川環境整備事業(一日市放水路)着手
 (釜石川から香住漁港東港)
 平成16年：台風第23号洪水(浸水家屋 35戸)
 平成25年：香住谷川水系河川整備基本方針策定
 平成26年：香住谷川水系河川整備計画策定

※浸水家屋数は香住谷川水系河川整備計画による